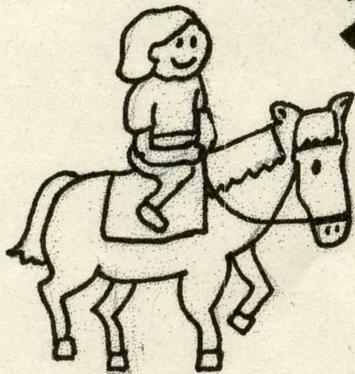
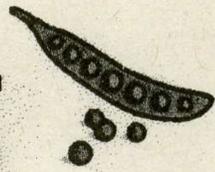


えんどうまめ通信



2015年9月

練馬区立中村小学校 心のふれあい相談員 遠藤 絵里

「本物体験！」

夏休みもシルバーウィークも終わり、気がつけばひんやりと秋の空気が変わっています。

先日、家で新聞のテレビ欄を見ていて気づいたのですが、最近は旅やグルメの番組が本当に多いですね～。行きたくても行かない所の映像が見られて、なるほど、こんなに素敵な所なのかと興味深く見ることがあります。でも、ある時実家の近辺が画面に登場しました。立て続けに素敵なお店がうつりましたが「あれ？ここからこの店はけっこう遠いはず」など、実際に知っている地元とは違って、かなりエッセンス（いい所）だけをつなげているようにも感じました。テレビやインターネットの情報はありがたいものですが、簡単に自分が体験したような錯覚に陥ってしまいますし、切り取られた一部の情報だけが正しいわけではないな～とも思います。

昔、相談室で子どもたちと馬の話になりました。ある子の持っている情報は「知っているよ、テレビで見たけど、落ちると大変だって」ということでした。馬に乗ったことのある子は「思ったより（高さが）高いんだよ。足もうんと広げないと乗れないよ。足音がパカパカしていて、おとなしくてかわいいよ」と、何か別の感覚を伝えようと一生懸命でした。

今、子どもたちは、生まれた時からテレビやインターネットの情報に囲まれています。もし自分で実際に本物を見たり体験したりする前に、画面にうつっていることや疑似体験だけを通して「もう知っている」と思ってしまったら、ちょっと残念だな～と思います。なぜなら、それは本物に触れて感じることのほんの一部でしかないわけですし、「もう知っている」ような感覚が子どもたちの好奇心ややる気を大きく失わせしまうからです。

もし「最近ウチの子、やる気がないな～」と思われる方がいらっしゃったら、何か「本物に触れる体験」を試してみるのはいかがでしょうか？ 五感に残った強烈な印象は「もう知っている」ではなく「もっと知りたい」につながるはずです。そんなに大きな体験から始めなくても大丈夫です。テレビを消していっしょに料理をする、画面のゲームではなくて本物のボールを投げっこする、ショッピングモールではなく池袋線で秩父方面に行って途中下車してみる……などなど。いっしょに本物体験をするということは、親子の大切な時間を作ることにもつながりますね。五感も心も満たされて、やる気があふれるといいなあと思います。

相談室直通電話 080-2010-1957 月・水・木（面談は原則9時～2時ですが、ご都合のつかない場合は予約の際にご相談ください） 金曜日は臨床心理士の中里先生が相談室にいらっしゃいます。